

# オセアニア[NZ]

## 1 農・畜産業の概況

ニュージーランド(NZ)の農業(林業、水産業を除く)は、GDP や就業人口に占める割合がいずれも1割にも満たない。しかし、総輸出額(FOB)に占める農林水産物の割合は、50%程度となっており、外貨獲得上、農業は豪州以上に重要な地位を占めている。

中でも畜産部門は、農産物輸出額、農業粗生産額とも7~8割を占めており、さらに畜産部門の中でも酪農乳業は、農産物輸出額および農業粗生産額のいずれも5~6割を占め、農業において極めて重要な役割を果たしている。

2008/09年度(4~3月)の農業粗生産額を部門別に見ると、2001年10月に国内生乳生産量の約95%を処理・加工・販売する巨大酪農企業フォンテラが誕生した酪農部門で

は、乳製品国際価格の高騰を背景に倍増した前年度に比べ、14.5%減の85億NZドル(推計)と大きく減少した。一方、牛肉部門は、同26.1%増の26億NZドル(推計)となった。この結果、畜産部門全体としては、同6.4%増の161億NZドルとなっている。

2008/09年度(7~6月)の農産物総輸出額(FOB)は、前年度比8.8%増の約221億NZドルとかなり増加した。このうち、畜産物は、同7.5%増の約179億NZドルとなった。内訳は、牛肉(生体を除く)が約20億NZドル(21.0%増)、羊肉(生体を除く)が約30億NZドル(19.1%増)、羊毛が約6億NZドル(7.2%減)、鹿肉が約3億NZドル(2.1%増)、牛乳・乳製品が約100億NZドル(4.0%増)となり、羊毛を除き増加した。

図1 農業粗生産額(2008/09年度)

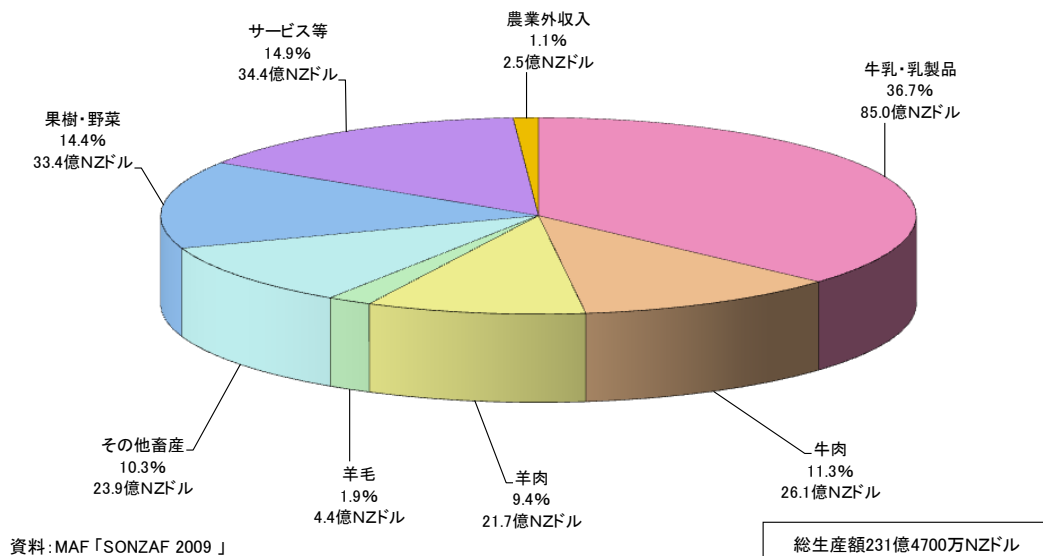
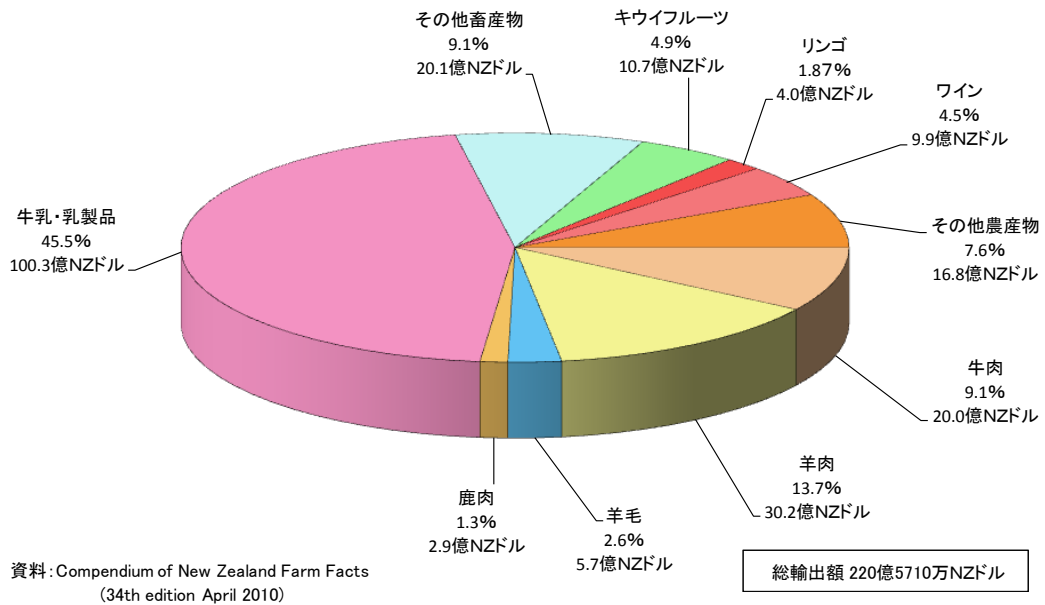


図2 農産物総輸出額(2008/09年度)



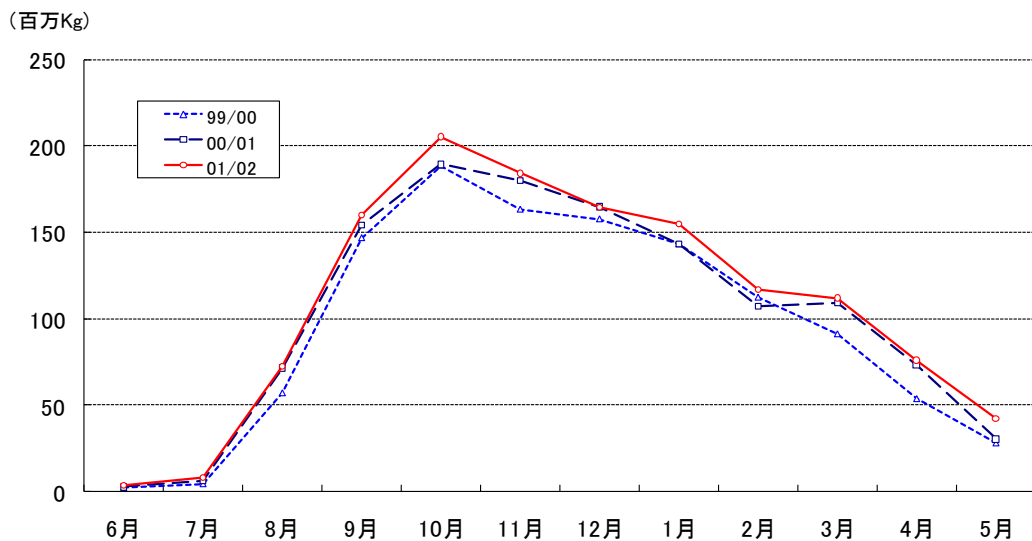
## 2. 畜産の動向

### (1) 酪農・乳業

NZの酪農は、温暖で降雨に恵まれた自然条件を生かし、草地を最大限に利用した放牧中心の飼養形態である。このため、年間の生乳生産は、牧草の生育状況と密接に連動し

ており、初春となる8月から搾(さく)乳を開始し、10~12月の初夏をピークにその後次第に減少、5月頃にはシーズンを終えるという明確な季節型生産体系を示している。生乳生産の中心となる9~2月の6カ月間で、年間の約8割を生産する。

図3 生乳の処理状況の推移(具体例)



NZでは、粗飼料(放牧)に依存した生産体系により、生乳生産のコストは世界的に見ても最も低い水準にある国の一つといえる。生産量の約95%が輸出に仕向けられる乳製品は、NZの総輸出額の20%程度を占めており、酪農・乳業部門はNZの基幹産業として位置付けられている。

NZは、生乳生産量については、全世界の約3%を占めるにすぎないが、乳製品の国際貿易における供給国としてのシェアは35%(2009年:生乳ベース)を占め、世界最大の輸出国となっている。また、国内市場の規模が小さいため、生乳生産者価格、乳製品価格は、いずれも国際市場の影響を強く受けざるを得ない状況にある。

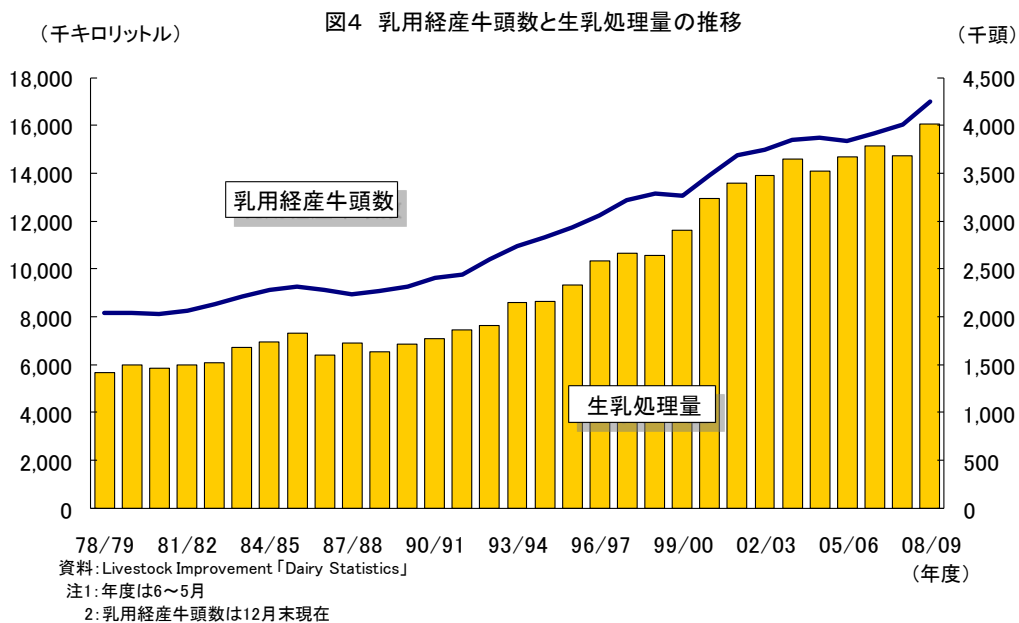
### ① 主要な政策

酪農・乳業に対する国内の価格支持政策は存在しないが、2001年9月まで、ニュージーランド・デイリーボード(NZDB)が乳製品の一元輸出機能を持っていた。しかし、同年10月、

二大酪農協とNZDBの販売機能を取り込んだ巨大酪農協(乳業メーカー)フォンテラが誕生し、酪農乳業の再編が達成された。

### ② 生乳の生産動向

生乳生産は、1990年代に入り好調な輸出を反映して増加基調となり、1990/91年度(6~5月)から1997/98年度までの間、処理量ベースで年率4.6%と増加し、また、経産牛の飼養頭数も同4.0%の増加となった。その後、経産牛頭数は一時、わずかに減少したものの、それ以降、国際的な乳製品相場の好転などからおおむね増加基調で推移している。近年は特に増加率が高く、2008/09年度の経産牛飼養頭数は、前年度比6.0%増の約425万3千頭となり、生乳生産量は、経産牛飼養頭数および経産牛1頭当たり搾乳量の増加とともに、右肩上がりでも推移してきた。2008/09年度は、乳製品国際価格の急落から生産者乳価が下落したにもかかわらず、前年度比8.8%増の1604万4千トンとなった。



一方、酪農家戸数は、地価の上昇などから新規参入が難しくNZ全体では減少傾向にある。しかし、南島では羊・肉牛

部門における収益性の低下から酪農部門への転換が進んでおり、増加している。1戸当たりの経産牛飼養頭数は、規

模の拡大により一貫して増加し、2008/09年度は366頭となった。このうち、1戸当たり300頭以上を飼養する経営は全戸数の49.8%(前年度比2.8ポイント増)、500頭以上を飼養する経営は21.3%(同2.5ポイント増)、また1000頭以上を飼養する経営は3%(同18.3ポイント増)の368戸となっている。

NZの生乳生産は北島を中心としたものであるが、近年は南島での拡大が目立っており、2008/09年度の経産牛頭数

をみると、北島は前年度比2.3%増の282万頭とわずかな増加にとどまる一方、南島は同14.0%増の143万頭とかなり増加した。これは、酪農の適地である北島の地価高騰に加え、フォンテラ設立に当たりNZDBが行っていた南島への移入制限措置を撤廃したことから、南島での新規参入が増加していることによるものである。

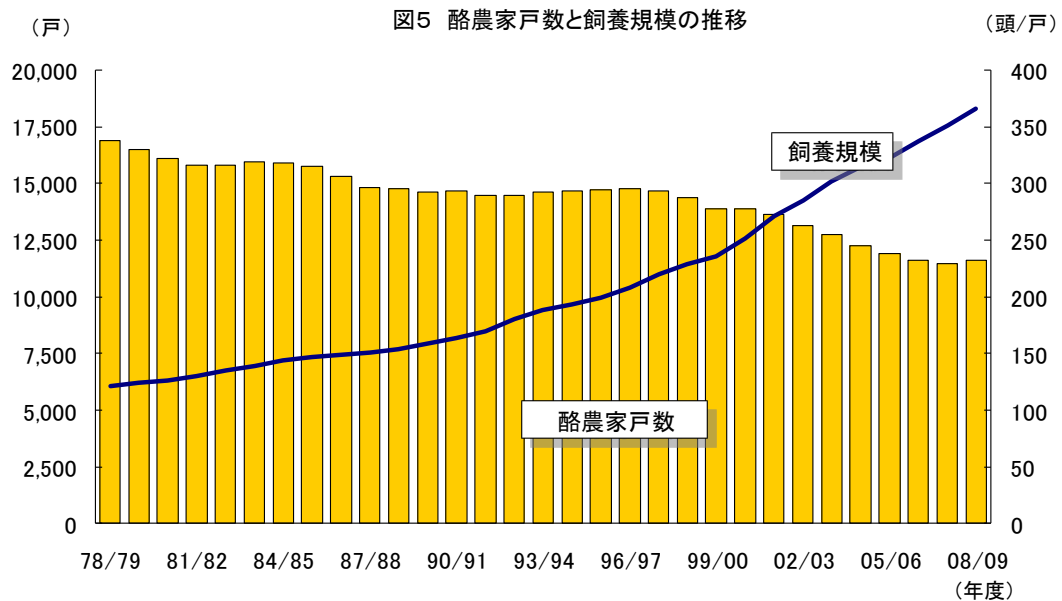


表1 地域別の飼養戸数・頭数・規模の推移

地域/区分・年度	飼養戸数(戸)					飼養頭数(千頭)					飼養規模(頭/戸)				
	04/05	05/06	06/07	07/08	08/09	04/05	05/06	06/07	07/08	08/09	04/05	05/06	06/07	07/08	08/09
北島	10,010	9,619	9,343	9,050	8,998	2,804	2,737	2,761	2,757	2,821	280	285	296	305	314
南島	2,261	2,264	2,287	2,386	2,620	1,063	1,095	1,155	1,256	1,432	470	484	505	526	546
NZ合計	12,271	11,883	11,630	11,436	11,618	3,868	3,832	3,917	4,013	4,253	315	322	337	351	366

資料: Livestock Improvement 「Dairy Statistics」

注1: 年度は6~5月

注2: 各年度12月末時点

注3: 頭数は当該シーズンに搾乳された乳用牛頭数

### ③ 牛乳・乳製品の需給動向

NZの乳製品生産は、かつて、法律に基づき輸出を一元管理するNZDBの市場戦略により調整されていたが、フォンテラの設立に際し、どの乳業メーカーでも輸出が自由に行えるようになった。しかしながら、同国におけるフォンテラの乳製品生産のシェアは、依然として90%以上を占めることから、

事実上、同社の一元管理状態となっている。

近年は、バターや脱脂粉乳など原料としての性格が強い、いわゆるバルク商品からの脱却を狙い、製品の付加価値化や多様化を図るとともに、世界的な脂肪過剰を見越して、生乳を丸ごと利用できる全粉乳やチーズの生産拡大が推し進められている。また、輸出相手国は、フォンテラの企業戦略と相まって、北米、EU地域、アジアや南米など世界140カ国

となっている。フォンテラは、2002年に世界的な大手食品メーカー「ネスレSA」と合弁企業を設立し、2003年1月から中南米の市場での乳製品製造・販売会社の運営など国際市場への積極的な進出を図っている。

については、バターは前年度比2.4%増、全粉乳は同7.0%増、脱脂粉乳は前年度大幅に減少した反動もあり同30.4%増となった。一方、チーズは、同1.4%減とわずかに減少したが、輸出額においては増加した。

2008/09年度(7~6月)の乳製品輸出は、世界金融危機に見舞われ、乳製品国際価格が高騰したため、輸出量に

表2 生乳生産量および乳製品輸出量の推移

区分/年度	(単位:千頭、千トン)				
	04/05	05/06	06/07	07/08	08/09
経産牛頭数	3,868	3,832	3,917	4,013	4,253
生乳生産量	14,103	14,702	15,134	14,745	16,044
バター	215	264	272	252	258
チーズ	276	282	324	286	282
全粉乳	581	653	665	644	689
脱脂粉乳	217	249	332	257	335

資料: Livestock Improvement「Dairy Statistics」、Statistics New Zealand

注1: 経産牛頭数は各年度12月末時点

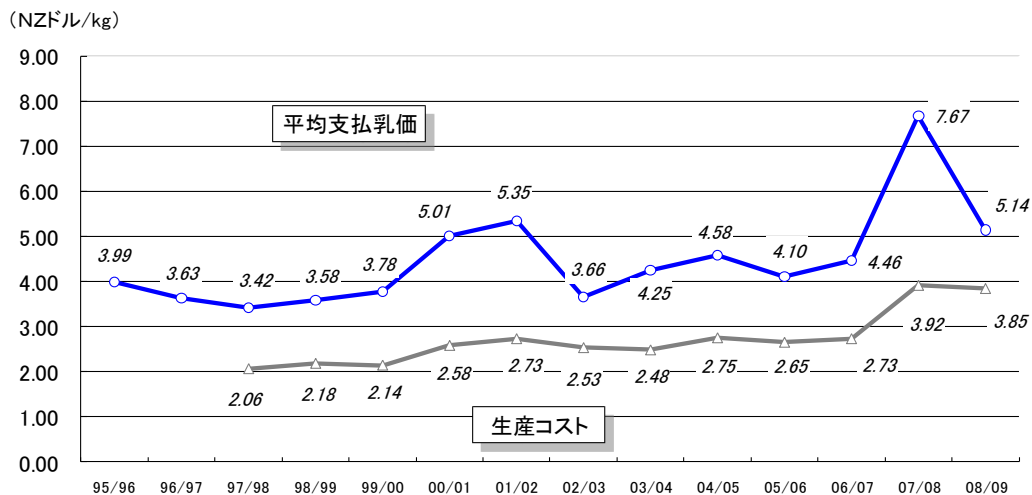
注2: 乳製品輸出量は各年7~6月

#### ④ 乳価の動向

生産者乳価は、乳製品の国際需給に大きく影響され、国際価格や為替相場(NZドル)の動向などに左右される。

2008/09年度は、記録的な乳製品国際価格の高騰により、乳固形分キログラム当たりの価格が過去最高となった前年度に比べ、33%安の5.14NZドルと大幅に下落した。

図6 生産コストと平均支払乳価の推移(乳固形分ベース)



資料: Dexel「Economic Survey of New Zealand Dairy Farmers」  
Livestock Improvement「Dairy Statistics」

(年度)

## (2) 肉牛・牛肉産業

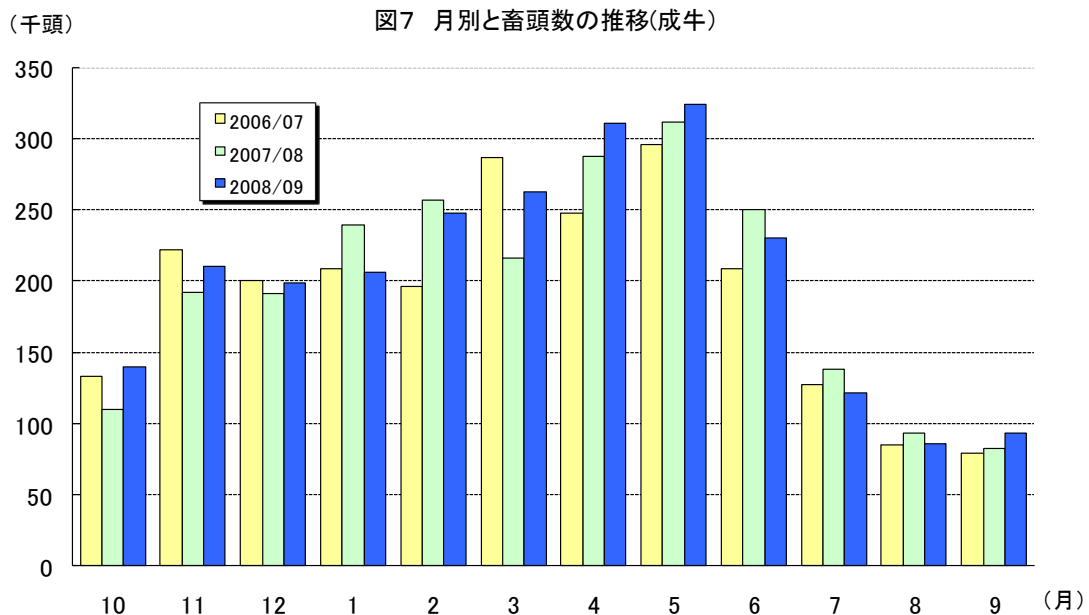
NZの肉牛生産は、豪州以上に草地に依存した生産体系となっており、放牧肥育がそのほとんどを占め、穀物肥育は例外的といえる。

年間の牛肉生産(と畜)の傾向は、生乳生産と同様に牧草の生育ステージと密接に連動しており、生乳生産が終了する5月にピークを迎える。その後は春先にかけて大きく減少するという季節型を示している。このため、最低となる8~9月のと畜頭数は、ピーク時である5月の3分の1程度にまで減少する。

豪州の牛肉生産は、大部分が肉専用種によるものであるが、NZでは、肉用牛として飼育される3分の1程度は、乳用種または乳用種・肉用種の交雑種となっている。

酪農部門から供給される乳用種の雄牛は、子牛肉として出荷されるものが多いが、残りは去勢しないまま飼養され、乳用経産牛と同様に加工用牛肉(ひき材用途)として、米国を中心とした北米市場に輸出されている。このことから、酪農部門は、肉牛供給という面からも牛肉生産にとって重要な側面を担っている。

NZの肉牛生産は、酪農部門と同様に、国内の市場規模が小さいことから産業として輸出依存度が高く、生産された牛肉のうち、金額ベースでおよそ8割程度が輸出に向けられている。このため、肉牛生産も酪農部門と同様、価格面などで国際市場の影響を強く受けている。



### ① 肉用牛の生産動向

肉用牛の飼養頭数は、収益悪化による経営規模の縮小や、酪農、養鹿、林業など収益性の高い部門への転換などが背景となり、1995年6月期の518万頭をピークに減少を

続けていた。また、1997/98年度および1998/99年度と東部を中心とする干ばつが続き、早期出荷や繁殖牛のとう汰も進んだ。その後も、ほかの畜種への転換などで飼養頭数は大きく回復せず、2009年6月時点の肉用牛飼養頭数は、前年比1.7%減の406万6千頭となった。

表3 牛飼養頭数の推移

区分/年	(単位:千頭)					
	2004	2005	2006	2007	2008	2009
乳用牛	5,152	5,070	5,170	5,261	5,578	5,736
乳用経産牛	4,103	4,106	4,138	4,167	4,348	4,471
肉用牛	4,448	4,431	4,439	4,394	4,137	4,066
繁殖用経産牛	1,265	1,258	1,269	1,195	1,104	1,075
合計	9,601	9,501	9,609	9,655	9,715	9,802

資料: Meat &amp; Wool NZ「Annual Report」

注: 各年6月30日時点

## ② 牛肉の需給動向

牛肉の生産量は、1996/97年度を境に減少傾向にあったが、2000/01年度以降干ばつから回復したことで、増加に転じた。その後は、飼養頭数の増減に合わせ変動するものの、60～70万トン間で推移している。2008/09年度については、去勢牛、雄牛のと畜が増加するとともに、乳価の急落か

ら乳用経産牛のとう汰が進んだとみられるものの、と畜頭数は前年度並みの385万2千頭となり、牛肉生産量も、前年度並みの64万トンとなった。

2008/09年度の輸出量は、前年度並みの36万トンとなった。最大の輸出先である北米向けが輸出量全体の46%程度を占め、次いで北アジア向けが24%程度を占めている。

表4 牛肉需給の推移

区分/年度	04/05	05/06	06/07	07/08	08/09
成牛と畜頭数(千頭)	2,422	2,338	2,292	2,367	2,431
子牛と畜頭数(千頭)	1,380	1,389	1,369	1,507	1,421
生産量(千トン)	652	643	623	635	635
輸出量(千トン)	386	373	352	363	364
加工用牛肉価格(NZセント/kg)	225	233	212	210	222
高品質牛肉価格(NZセント/kg)	318	300	322	333	370

資料: Meat &amp; Wool NZ, SONZAF

注1: 年度は10～9月、ただし、牛肉価格については、7～6月

2: 生産量は枝肉重量

3: 輸出量は製品重量

4: 08/09年度は暫定値

## ③ 肉牛・牛肉の価格動向

北米向け輸出の多くを占める加工用牛肉の価格は、輸出が不振を極めた95/96年度を底に回復傾向にあったものの、2002/03年度は、最大の輸出先である米国において乳用牛のと畜頭数の増加などによる需給緩和により落ち込みを見せた。その後、米国経済が好調に推移したことや、2003年5月にカナダで発生したBSEによる同国産牛肉の米国への

供給がストップしたことなどから価格は上向きに転じ、以降回復基調にあったが、近年は、米国における乳牛とう汰や為替相場などの影響を受け安定しておらず、2008/09年度は、前年度比5.7%高のキログラム当たり222.0NZセントと3年ぶりに前年水準を上回った。一方、高品質牛肉価格は、3年連続して上昇し、同11.1%高のキログラム当たり370.0NZセントとなった。